

2024年度受講生の声

「論文の解剖学」を受講して考え方がどう変わりましたか？

受講生	受講前の考え方	授業での経験	その経験で変わったこと
A	論文は、タイトル、アブストラクト、イントロダクション、メソッド、結果、ディスカッション、結論といった順番で書かれることは理解していましたが、構成や各要素を深く検討したことはありませんでした。 論文について漠然と「難しい」と感じていましたが、その理由が明確にはわかりませんでした。	論文がなぜ難しいのかを理解することができました。 傘やメガネといった身近なものを題材にして、一定の型で言語化することで、他の人に伝える方法を実践しました。 狭心症病態や論文2本を題材に、「理解の構造」や「ダイアグラム」を作成し、他の受講生や講師の方々と意見を交わすことで、不足している点や不明な点を明確にすることができました。	論文は理解できないことが理解できるまでの「説明書」であることを学びました。「理解の構造」で理解への筋道、「ダイアグラム」で理解の結果を表し、これらの「型」を活用することで説明書を作ることができることを実感しました。 「イントロダクション」は理解する前の段階であり「ディスカッション」は問題を理解した後に位置付けられ、それぞれで既知の役割が異なることも、講義を通じて学びました。
B	論文に関しては、背景と方法と結果と考察という流れで考えていたが、各項目との関係や必要な情報については十分な理解には至っていなかった。	論文とは理解できないことが理解できるまでの説明書というのが、大変腑に落ちる考え方であった。 ダイアグラムを用いての全体像の整理、理解の構造のフレームワークを通じて、既知と未知の整理を行い、研究内容を問題、課題、方法、性質、統合、理解、事実と分類していくことで、論文の構造と内容への理解を深めることができた。	論文構造の理解が深化した。従来の背景、方法、結果、考察という基本4要素の把握から、各要素間の関連性がある理解へと発展した。 ダイアグラムを用いた要素間の関連性の記載の方法を理解した。因果関係と相関関係の区別、直接的・間接的影響の可視化など、複雑な研究構造を体系的に理解する重要性と手法を学んだ。 今後は内容を整理する際にこの手法を用いて、自分の研究テーマに関連する論文をまとめていきたい。
C	論文を読む際、Abstractを読む→興味がある→図表を見る→さらに興味がでる→本文読むという感じで読んできていた。 論文を読むことを患者の診療につなげたり、学会発表などをすることで自然と「外の世界」と繋げていたのだと思う。	ディスカッションが楽しかったです。受講生で意見を出して、講師も交えて話し合い、あれ？となるまで青木先生は眺めてる感じの学習法が良かったです。後輩指導する際、見習おうと思います。 論文を「理解の構造」とダイアグラムで視覚化することを経験しました。	論文の図表が大事と思っていましたが、今回の講義では一度も論文内の図表などの登場はなくとも内容はダイアグラムの作成で十分理解できるのだなと思いました。 今後、論文の内容を自分なりにダイアグラムに視認化して、重要な部分を肉付けしていく作業を試してみようと思いました。 医局の抄読会でまとめにおしゃれなダイアグラムを出してみたいです！
D	論文を読んでも字面として内容を分かった気になっているようで、真の意味で「理解」には至っていないと感じていました。 学会スライドも同様に、緒言・方法・結果・考察・結論と作りはするも論理として成り立っているのか不安に感じるが多かったのが実情です。	論文の解剖学で経験し得た最大のものは、「理解に至るまでの道筋を知る」でした。理解に至るには問題点や周辺の既知との繋がりを見出さなくてはならないことに気づきました。 受講前に自分が感じていた「真の意味で『理解』には至っていないのではないか」という不安を明確に掴むことが出来ました。	講義を経て「理解に至るまでの道筋」を知ったあとは、論文や他人の講演を聞く際の意識が変わったのを実感しています。 論文著者や演者はどういった問題を提起し、それに対してどういう要素に分けて統合し、周辺の既知と繋げて「理解」に至っているのか、そうした構造を意識出来るようになってきました。 もっと上手く出来れば、今後の自分の研究課題を見つけていく上でも有用なのではないかと思っています。
E	常々自分の指導教授から論文の書き方について言われているため、論文の基本的なことが分かり始めていた時期だったと思います。 緒言、方法、結果、考察で書くものの違いや、各セクションでこういった内容が必要かについては何となくわかってきた状態でした。	先行研究から問題点の解決を示す事、ダイアグラムで具体的に考える方法を経験しました。 講義中に多数の質問にお答えしていただきました。論文の中と外の世界の関係について質問し（中略）論文によってどこまでが中で、どこからが外の世界かは異なるという事に気づきました。	要素の関連についての理解が深まりました。方法に書くべきこと、結果に書くべきこと、考察に書くべきこと、などが明確になり、各セクションで書くべきことが理解できました。 論文を書く時の言及するべき範囲がわかったような気がします。